

はじめに

5

## 第1章 ボランティアの「そもそも」を見つめなおす

- 視点1 「ボランティア、帰って」の意味 10
- 視点2 「嫌だったらやめればよい」ということ 14
- 視点3 「もう、3周、まわっています…」 17
- 視点4 状況から逃げないということ 20
- 視点5 「気軽に、楽しく」を超えて 24
- 視点6 奉仕活動しないと罰せられる社会!? 28
- 視点7 市民活動の意義を否定する「自己責任論」 31
- 視点8 「不幸産業」ということ 35
- 視点9 巻き込まれながら、巻き返すために 39
- 視点10 「異質排除」を排するために 43
- 視点11 危うさ伴う「有償ボランティア」 47

## 第2章 支援者の輪を広げるために

- 視点12 「依存力」ということ 52
- 視点13 寄付とは参加である 56
- 視点14 不安が人を惹きつける 60
- 視点15 寄付が進める信じ合える社会づくり 64
- 視点16 「ニセ募金」を駆逐するには 70

## 第3章 躍動する組織になるために

- 視点17 NPO経営とJリーグの関係 76
- 視点18 運動とは事務なり 80
- 視点19 「勝手にライバル」の勧め 83
- 視点20 ワクワクする集団となるために 87
- 視点21 「後継者」はいらない!? 93

## 第4章 企業と市民、2つの社会的責任

- 視点22 「CSR」が支えるCSR 98

視点23 「社長の道楽」の勧め	103
視点24 愛して叱る	106
視点25 去る人たちに慰労と感謝を	110

## 第5章 社会を見つめてもう一歩深く

視点26 「市民活動市場」を作ろう！	116
視点27 「公共」とは「公開」の世界	120
視点28 修正主義的活動の勧め	123
視点29 「できることなら、するよ」ということの意味	127
視点30 「私にお任せを」には任せない	131
視点31 総選挙結果で考えた市民活動の今後	136
視点32 安易な公務員叩き、ちよつと待った	141
視点33 意図と効果の関係	146
視点34 やはり「連帯」以外に道はない	149
視点35 「巻き込まれる」ことの意味	153
あとがき	158

### はじめに

プロサッカーリーグの経営のカギを探ると、市民団体の支援者確保戦略が見えてくる！

いきなり、なんだと言われそうですが、実はそうなのです。どういふことかと言いますと…、本書の60ページを読んでいただければご理解いただけると思います。

一方、長くボランティアグループを引っ張ってこられたリーダーの皆さん。そろそろ後進にリーダーを譲りたいと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、後継者はどう育てれば良いのでしょうか？ いや、実は「後継者はいない」のです。なぜ？ そのわけは93ページに書いています。

そして、2004年に起こった「イラク人質事件」のことを覚えておられますか？ 当時、「自己責任論」という形で、イラクに暮らす人々の生活に寄り添おうと志した人々が厳しいバッシングに会いました。

なんか不条理だな…と感じた人も少なくないと思います。こうした問題をどう考えれば良いか。それは31ページを読んで、考えてください。

\*

このように本書は、さまざまな事件を素材にし、またボランティア活動、市民活動に関する時事的な課題をテーマに、活動に関わる視点、考え方をまとめたものです。

もともと大阪ボランティア協会の情報誌『月刊ボランティア』、それを改題した『ヴォロ(VoLo)』の連載コラム「V時評」として書き綴ったもので、扱った事件やテーマは実に多様です。

たとえば、素材として扱った事件・出来事では、長野オリンピック、横浜フリーゲルズ身売り騒動、無党派層の拡大、いじめ自殺、5人組密室談合での首相選任、イラク人質事件、秋葉原通り魔事件、自動車の